

は し が き

本年度「家庭科定期研修」に参加したかたがたと当センターの担当所員との共同研究を「実践研究集録第12集家庭科編」として刊行いたします。

家庭科教育の指導方法の研究は、小・中ではなかなか活発に行われておりますが、高校では専門分野の教材研究はかなり盛んですが、指導方法についてはやや不足しているように思えます。しかし、質的に多様化する生徒と教育の現代化に即応するために、高校家庭科における指導方法の研究の必要が痛感されます。

当センターでは、従来の指導方法の反省から、自主的な学習態度の育成をめざした家庭科指導法の研究を続けてまいりました。

昨年度は「意欲的な学習指導の試み」と題して、課題解決学習をとりあげ、実践研究を行いました。現実の生活の中から問題をは握し、自主的な調査、研究、実験、討議によって解決し、創造の喜びを体得し、実践化に結びつける、いわゆる「学び方の学習」の研究で、それが生涯教育の中で学校教育の果たす役割とも言われます。その結果として教育効果はあがったのですが、反面時間不足の問題がでてまいりました。

それで、本年は「指導の重点を考慮した高校家庭科（食物）授業の試み」として小・中・高の指導内容の関連、既習知識の調査結果等を検討して、指導内容の重点化をはかり、それにもとづき、再び課題解決による学習を試みました。

定期研修員9名のかたがたが、年間にわたり定期的に当センターに集まり、所員や外来講師から実験についての指導をうけ、また、重点化や指導法の問題について討議、検討しあい、その結果にもとづき実践研究をしてきました。

しかし、何分にも問題の大きさに比べ、時間の制限のためにじゅうぶんな成果が得られなかったきらいがありますが、この資料を各学校における指導に直接又は間接に役立てていただければ幸いです。御活用の上、きたんのない御批判をいただきたいと思います。なお、今後一層の精進と充実を期したいと存じておりますので、よろしく御指導を賜りますようお願いいたします。

おわりに、校務多端の折、快く研修の機会と実践研究の場を与えてくださった校長先生や諸先生方に対して、研修員とともに厚くお礼申し上げます。

昭和50年1月24日

新潟県立教育センター所長 竹 内 豊 治